

Creates the future

未来を創るイノベーション

OUR APPROACH

すでに顕在化している社会課題や潜在的な課題、市場の環境変化に対応するため、東洋アルミグループの持つコア技術をベースに、先端技術本部および新事業創造部を中心として研究開発及び事業化を推進しています。対象を「既存市場」「新市場」「次世代市場」の3つの市場に分類し、それぞれにリソースを投入して研究開発に取り組んでいます。自社だけでは解決が難しい場合は、国内外を問わず、ベンチャー企業や大学、研究機関などのパートナーとアライアンスを結ぶオープンイノベーションを積極的に推進しています。私たちは、「共有価値の創造 (CSV)」の観点を取り入れ、ステークホルダーとのコミュニケーションを深め、東洋アルミグループと社会との共有価値の創造を実現できる開発を行います。また、アルミをベースにしながらもアルミにこだわらず新しい発想で世界をリードしていくことを目指します。

主なSDGsとの対応関係



社会的課題から新しいビジネスのヒントを見出し、当社にしかできない技術でSDGs達成に貢献していきます。

新しい発想の製品アイデアや先端技術本部が生み出す新技術をモノに換え、事業化をしていくのが、新事業創造部です。新しい事業は簡単に生まれるものではありませんが、社会的な課題に対して向き合い、そのなかで当社ができることを見ていくことで、SDGs達成への貢献にもつながるビジネスが創出できるものと思います。そのための人財育成や、パートナーシップの拡大を課題として取り組んでいます。



取締役 常務執行役員
新事業創造部統轄

福岡 祥浩

当社の強みであるアルミ表面処理技術をベースに、多様な発想を取り入れ、新しい価値を創出していきます。

新事業における技術シーズを創出する部門として、これまでに培ってきたアルミ表面処理技術を活かした新しい価値の創出によって、新市場そして次世代市場の領域の拡大を進めています。そのために、ダイバーシティやオープンイノベーションの活用などにより、柔軟で幅広い発想を取り入れ、またアイデアが生まれやすい環境やしきみづくりにも注力しています。



常務執行役員
先端技術本部統轄

足高 善也

2019年度の主な取組み

人財育成	■ヒト、モノ、カネのマネジメントができる人財育成のための勉強会 ■社会人ドクターの養成
オープンイノベーションの推進	■産学連携の取組み ■ベンチャー企業や大学、研究機関とのコラボレーション
ダイバーシティの推進	■女性従業員の活躍推進 ■役員・従業員のグローバル化

CSR活動アクションプラン 2019年度の成果

- 既存事業:SDG3、7、9、11、12に貢献する製品売上向上
→各事業本部がSDGs達成に貢献する製品を選定
- 新規事業:第5の柱(事業)を創出
→事業化の目途1件以上

Practice case

CSR重要課題実践事例

case 01 新規事業:第5の柱(事業)を創出

オープンイノベーションの推進

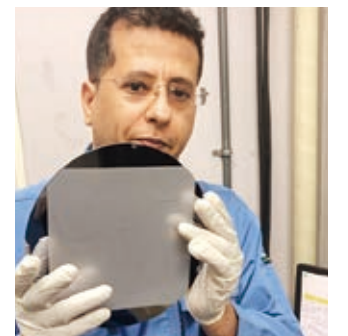
次世代市場創出のためにさまざまな協業を進めています。電池関連では、次世代電池として注目されている「半個体リチウムイオン電池」を開発した24M technologies社(米国・ボストン)と共同開発を開始しました。先方が保有する最新電池技術に当社独自の表面処理技術を駆使した電極を採用することによって電池特性の向上を目指します。



case 02 新規事業:第5の柱(事業)を創出

ダイバーシティの推進

研究開発活動を活性化していくためには多様な視点が必要です。先端技術本部では2021年度までに女性従業員の比率を全体の20%以上にすることを目標に、積極的な採用に取り組んでいます。また、同時にグローバル化も必要です。イエメン出身のダムリンマルワン役員(シニアスペシャリスト)は2020年9月より大阪大学に設置する「東洋アルミニウム半導体共同研究講座」の特任教授に就任します。産学連携の枠組みで当社開発品を世界に発信してくれることを期待しています。



case 03 既存事業:SDG3、7、9、11、12に貢献する製品売上向上

防虫雑貨用の樹脂材料(コンパウンド樹脂)の開発

防虫剤などの液体を高濃度に封入したコンパウンド樹脂を生産しています。当社のコンパウンド樹脂は防虫効果を長期間持続できる防虫雑貨に使用され、国内外で好評を得ています。今後、防虫雑貨品を含め抗菌・抗カビ効果のあるコンパウンド樹脂素材の開発を進めていきたいと考えています。

